

# 城西大学 Sports

男女駅伝報告号

JU 2021年1月 vol.44

城西大学の題字は創立者・水田三喜男先生  
発行所：〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1 城西大学

## 第97回箱根駅伝

# 1区、5区など健闘も総合16位で シード権に及ばず

# 「強い城西」目指す日々 また始まる

## 「山登りデビュー、山本唯など 来シーズンへつながる 1年生3人の箱根路経験

第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)は1月2、3日に行われた。2年ぶり16回目の出場となった男子駅伝部は総合16位となり、シード権獲得はならなかった。コロナ禍で難しい対応を余儀なくされた今シーズン。予選会を3位で突破して3年ぶりのシード権獲得に挑んだが、及ばなかった。それでも今季急成長の砂岡拓磨(経済3)は1区7位と健闘。山登りの5区・山本唯翔(経営1)が区間6位、山下りの6区・野村颯斗(同)が区間11位と両1年生が気を吐いた。下級生6人が箱根路を経験したことは、来シーズンにつながる明るい材料だ。「強い城西」を目指す日々がまた始まる。【箱根駅伝取材班】=写真は関東学連提供



5区・山本唯翔



6区・野村颯斗



7区・藤井正斗



9区・宮下璃久

予選会突破の原動力となった主将の菊地駿弥(経営4)、菅原伊織(同)、砂岡の3本柱を全日本大学駅伝同様、1〜3区に配置して往路で貯金をつくる作戦で本戦に臨んだ。1区・砂岡は終盤順位を落としたが、最後は必死に順位を上げて7位でエース区間の2区・菊地に襷を渡した。菊地は3〜5位集団で粘ったが、終盤離されて9位で3区・菅原につなぐ。予選会後、調子を落としていた菅原予選会チーム4位の4区・梶川由稀(経営4)とも本来の走りが見られず、順位を落とした。しかし、5区に

起用された山本唯が区間6位の「山登りデビュー」を果たし、順位を3つ上げて復路でのシード権入りに望みをつないだ。6区山下りも1年生の野村が抜擢された。後半疲れたものの区間11位で順位を12位に1つ上げた。7区・藤井正斗(経営2)は粘って12位でつないだが、8区・新井颯人(経営1)は区間19位と苦しい走りでも順位を1つ落とす。9区・宮下璃久(経営3)は区間13位で順位はそのままで最終10区・雲井峻太(経営4)も区間19位に沈んで16位でのゴールとなった。

今回の箱根駅伝はとも自分力不足を実感するレースとなりました。大きな道路で前があまり見えない、21キロという長い距離を一人で走るといふことの難しさを知りました。箱根駅伝を走るためにはどのような練習が必要で、どのような力が必要なのか、駅伝の流れの大切さを学べました。箱根駅伝の借りは箱根駅伝でしか返せないと思うので、来年はチームの柱となり往路で勝負したいです。そのためにも予選会を通過し自分がチームを引っ張っていきたくです。

箱根駅伝は難しい大会だと痛感しました。走る前、単独走になっても頑張ろうと覚悟していたのですが、いざ単独走になると自分の思っていたペースで走ることができなくなって焦りを感じてしまいました。やはり、自分でペースを作って走れるようになっていないと箱根駅伝では歯が立たないということが分かりました。単独走で走れる選手になるのはもちろん、箱根駅伝やいろいろな大会で外さない選手になるため、練習の時、辛くなったらこの悔しい気持ちを思い出してもっと強くなりたい。

出し切り、走り切ることができました。チームの総合結果は16位になりましたが、この結果をしっかり受け止めて、来年また箱根駅伝に出場してシード権獲得と最高順位の総合5位を達成できるように今年1年間、頑張っていきます。

箱根駅伝の応援ありがとうございました。チームとしても個人としても悔しい結果となってしまいました。もっと強くなって来年は良い結果を残せるように頑張ります。

目標にしていたシード権獲得、そして過去最高順位更新となる5位には手が届きませんでした。7区まではシード権争いに参加していたので、流れを維持できなかったことが悔やまれます。これからレースを振り返って細かく反省し、新チームでの強化へと生かしていくつもりです。今大会で手にできた明るい材料は4年生以外の選手が好走してくれたことです。5区、6区は

1年生で強豪チームの選手らと競えたのは大きな自信となりました。今季は主将の菊地駿弥が競技者としての高い意識を植え付けてくれたこともあり、今後さらに高いレベルを目指して頑張ります。チームの輪を強く固にしながらも、練習から競争を促し、競い合って成長していければと考えています。今後城西大学男子駅伝部へのご声援をよろしくお願い致します。

2年前のリベンジを果たしたかったのですが、今回も跳ね返されしまいました。この貴重な経験を今後につなげていきたいと思えます。

10区・雲井峻太(経営4)

### 選手コメント

### 城西は必ず強くなる。見つけたい

### 菊地

### 菅原

### 野村

### 山本

1区・砂岡拓磨(経済3)ペース変動が多く難しいレースとなりましたが、前が見える位置で渡せた点は評価できると思っています。来年度は区間争いに加わるようにこの1年間を大切にしていきます。

2区・菊地駿弥(経営4)今回2区を走ってみて、最高の88分間でした。少し予想外のこともあったのですが、今の自分の120%は出せました。個人としてもチームとしても満足いく結果ではなかったのですが、これからの自分、チームにつながる箱根駅伝でした。今後の城西大学は必ず強くなりま

3区・菅原伊織(経営4)今回の箱根駅伝で、個人の走

4区・梶川由稀(経営4)自分の走りをするのが出来ず、悔しい走りとなってしまいました。しかし、最後は自分の力を出し切ったので、悔いはありません。4年間指導して下さった監督・コーチ、支えてくれた家族・チームメイトには感謝しかありません。

5区・山本唯翔(経営1)今回は初めての箱根駅伝で順位変動が多い5区を任せられて少し緊張しましたが、前に前という走りをして100%の力を

6区・野村颯斗(経営1)箱根駅伝の応援ありがとうございました。チームとしても個人としても悔しい結果となってしまいました。もっと強くなって来年は良い結果を残せるように頑張ります。

総合成績	
総合16位	11時間11分20秒
《往路》13位	5時間35分44秒
《復路》15位	5時間35分36秒

オーダー	記録(区間順位)	通過順位
1区(21.3%) 砂岡拓磨(経済3)	1時間3分21秒(7位)	7位
2区(23.1%) 菊地駿弥(経営4)	1時間8分12秒(11位)	9位
3区(21.4%) 菅原伊織(経営4)	1時間5分28秒(17位)	14位
4区(20.9%) 梶川由稀(経営4)	1時間5分40秒(18位)	16位
5区(20.8%) 山本唯翔(経営1)	1時間13分3秒(6位)	13位
6区(20.8%) 野村颯斗(経営1)	59分11秒(11位)	12位
7区(21.3%) 藤井正斗(経営2)	1時間5分2秒(13位)	12位
8区(21.4%) 新井颯人(経営1)	1時間7分18秒(19位)	13位
9区(23.1%) 宮下璃久(経営3)	1時間11分3秒(13位)	13位
10区(23.0%) 雲井峻太(経営4)	1時間13分2秒(19位)	16位

歴代成績	
第80回	総合19位 11時間42分15秒
第81回	総合15位 11時間22分49秒
第82回	総合11位 11時間16分10秒
第83回	総合11位 11時間20分50秒
第84回	総合11位 11時間20分19秒
第85回	途中棄権
第86回	総合6位 11時間17分53秒
第87回	総合11位 11時間13分26秒
第88回	総合6位 11時間10分17秒
第89回	途中棄権
第90回	総合19位 11時間25分42秒
第91回	総合7位 11時間8分15秒
第92回	総合12位 11時間20分6秒
第93回	出場なし
第94回	総合7位 11時間12分12秒
第95回	総合20位 11時間19分57秒
第96回	出場なし
第97回	総合16位 11時間11分20秒



# 2年連続入賞「必達」目標上回る6位

## 出走7人中6人が区間一桁順位の力走

富士山女子駅伝

### 次大会での全国3位以上が現実味帯びる

2020全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)は2020年12月30日、静岡県富士宮市と富士市で開かれ、女子駅伝部は2時間27分59秒で6位となり、2年連続の入賞を果たした。最後のレースとなった麓谷有希(現代政策4)と故郷から復帰した伊藤柚葉(経営1)が区間3位の活躍を見せたのはじめ、出走7人中6人が区間一桁順位の力走で昨年より順位を一つ落としたものの、「必達」の7位をクリアした。一時は4位に躍進、今年全日本、富士山女子で目標に掲げる3位が現実味を帯びるレースとなった。「富士山女子駅伝取材班」

7区間4.4キロで行われたレース。4年生1人、2年生3人、1年生3人で臨んだ。1区に起用された柳川愛絵(経営1)はトップ集団について粘りのレースを展開。先頭から21秒差11位で2区・藤村華純(経営2)に襷渡した。藤村は順位を2つ上げ、村上礼乃(経営1)は順位を1つ落としたが、2人とも良い流れを切らさなかった。4区の籠谷は代表最後の駅伝。「諦めない気持ちで最後まで粘る」とレースに望み、4年間の集大成の走りを見せて順位を3つ上げ、入賞圏内に入った。

最長区間の5区はエースの福嶋摩耶(経営2)。昨年区間3位の走りの再現はならなかったが、それでも順位を一つ上げて6区の伊藤につないだ。全日本でも順位を4つ上げてシード権入りに貢献した伊藤は11月の故障から復帰。3人を抜いて順位を4位に押し上げた。高低差169メートルの最難関区間7区を希望した谷は代表最後の駅伝。「諦めない気持ちで最後まで粘る」とレースに望み、4年間の集大成の走りをかせて順位を3つ上げ、入賞圏内に入った。



区間の順位を大成の走りを見せた4区・麓谷有希

区間の順位を6位の伊藤柚葉が4位で、アンカー・渡辺光美に襷渡し

3区・村上礼乃

エース区間の5区・福嶋摩耶は順位を一つ上げた

1区・柳川愛絵から2区・藤村華純に引き継ぎ

レース写真は月刊陸上競技提供

### 選手コメント

#### 4年間の思い全てぶつけて走った

■1区・柳川愛絵(仙台育英) 最終落ちていく走りが出来たかと思えます。スローペースからの大幅なペースアップに切り替えることが出来ず、そこから差が開いてしまっていました。ラストスパートのキレ、レースが動いた時の対応力、中盤の粘りなど沢山の課題、収穫を見つけれませんでした。次につながるレースになったと思います。

■2区・藤村華純(成田) 後半きつくなってから自分の走りが崩れてしまい、目標タイムに大きく届きませんでした。ですが、チームで立てた7位以内入賞という目標を達成できたことはとてもうれしかったです。目標を達成して4位も見えていたからこそ、もっと上という欲も出てきました。

■3区・村上礼乃(麗西大学附属城西) 自分が前半区間で良い流れを作った、もっと前の位置で襷をつなげられたら、目標に掲げている日本一にも到達できると実感しました。個人の走りに関しては持ち味を出せずに終わってしまった悔しい大会となりました。レベルアップに向けて今後の練習を頑張りたいと思います。

■4区・麓谷有希(銚子商業) このメンバーで戦う最後の駅伝で、私たち4年生にとっては競技人生最後の集大成となる駅伝でもありました。これまでの感謝と4年間の想いを全てぶつけて、楽しく思いっきり走ることができました。個人目標のタイムと区間順位も達成でき、競技人生の中で初めて大きな達成感と喜びを感じることができました。

■5区・福嶋摩耶(荏田) 今年最後の大会でチーム目標を達成することが出来たことはとてもうれしく思います。今年はなかなか練習の継続ができて、チームに貢献できた自信を持ってやる走りが出来ませんでした。まだまだ課題があるため、来年リベンジできるように練習に取り組みしていきたいと思っています。

■6区・伊藤柚葉(新潟明訓) 今回の駅伝では、落ち着いて走ることを心がけた結果、目標としていた20分を切る事が出来たので良かったと思います。ですが、故障で練習が止まってしまった期間があったことは悔しいです。故障なく練習が継続できる体づくりをして、さらに上であらうことを出来る力をつけていきたいです。

■7区・渡辺光美(市立船橋) 全日本では抜かされて目標以内でゴールすることが出来ず、悔しい部分が大きかったので、今回はしっかりと順位を決められる走りをしようとしたのですが、急な坂に対応出来ずに終わってしまいました。まだまだ力不足な点やこれからの課題が見えるレースとなりました。今年の経験や悔しさを経て来年は成長した姿をお見せできるようにしたいです。

6位	名前(学部学年)	記録(区間順位)	通過順位
1区(4.1* <sub>a</sub> )	柳川愛絵(経営1)	13分25秒(11位)	11位
2区(6.8* <sub>a</sub> )	藤村華純(経営2)	22分06秒(8位)	9位
3区(3.3* <sub>a</sub> )	村上礼乃(経営1)	10分42秒(9位)	10位
4区(4.4* <sub>a</sub> )	麓谷有希(現代政策4)	14分33秒(3位)	7位
5区(10.5* <sub>a</sub> )	福嶋摩耶(経営2)	35分38秒(7位)	6位
6区(6.0* <sub>a</sub> )	伊藤柚葉(経営1)	19分52秒(3位)	4位
7区(8.3* <sub>a</sub> )	渡辺光美(経営2)	31分43秒(6位)	6位

(2時間27分59秒)



レース後に笑顔の女子駅伝部

### 全選手が今ある力を出し切れた

赤羽周平(経営)コメント  
1区の柳川から、アンカー7区の渡辺まで、全選手が落ち着いて今ある力を出し切れていたと思います。最後の学生駅伝となった籠谷は、最後の最後まで努力を続け、レギュラーの座を勝ち取った選手です。後輩たちに学生競技者としての理想の姿勢を見せてくれたと感じています。最後は力及ばず4位をキープできず、6位フィニッシュとなりましたが、来年はよい表彰台に立つことも現実的であることは証明できたのではないかと感じています。新チームには、将来性があふれる新1年生たちが入学してきてくれる予定です。いよいよ大学女子駅伝の「3強」に挑んでいくことを目標にできたらと考えています。2021年も城西大学女子駅伝部が変わらぬで応援よろしくお願いします。

## サッカー部 発足1年目 フットサルチーム

### 片倉誠也がJ2ツエーゲン金沢と仮契約 城西初のJリーガー誕生へ

サッカー部のDF片倉誠也選手(経営4)がJ2ツエーゲン金沢と仮契約を結び、12月15日に清光会館で記者会見があった。2月に本契約を結び、城西初のJリーガーが誕生する。

会見はサッカー部の佐々木達也部長が司会を務め、片倉選手とツエーゲン金沢の田端秀規強化部長が出席。徳留嘉寛学生部長、東海林毅監督が同席した。田端強化部長は「佐々木部長、東海林監督が共通の知り合いで、サイドバックを探していたところ、紹介を受けた」と経緯を説明。「身体能力や守備の意識の高さから、(練習参加の)早い段階で獲得が決まった。我々のチームは少数精鋭で平均年齢が低いチーム。遠慮しないで最初からレギュラーを勝ち取るつもりで頑張ってもらいたい」と期待を寄せた。

片倉選手は「お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに日々精進していきたい。ステップアップして、日本代表に選ばれてワールドカップで活躍するのが大きな目標」と抱負を語った。

東海林監督は「プロになる以上、一日でも長く選手生活を続けてほしい。身体作りなど色々な所で成長しながらプロとしての職業を全うしてほしい」と、はなむけの言葉を贈った。

片倉選手は栃木県出身。鹿島学園高校から城西大学入学。身長171センチ、体重68キロ。2020年度は副将を務め、大学2、3年次には埼玉県大学選抜に選ばれていた。



田端強化部長と握手する片倉選手(右)

### 全日本選手権への県大会で優勝!

サッカー部のフットサルチームが昨年10月から11月にかけて開かれたJFA第26回全日本フットサル選手権県大会で見事に優勝を果たした。1月中下旬に開かれる関東大会に出場する。大学のチームが関東大会に駒を進めるのは、前回の多摩大学に続いて2校目の快挙だ。

チームは7月、フットサルに手を挙げた。12人でスタート。現在は14人とマネージャー1人がメンバー。「フットサルでの経験をサッカーにつなげていく一方、サッカーの経験をフットサルに還元していく」ことが、メンバーの共通の思い。サッカーの練習が終わった後、総合体育館で出来る練習は週1回か2回。それでも関東大学リーグ(11チーム参加)では昨年未現在、3勝3敗で6位につけている。

発足1年目、それも数カ月での県大会優勝に柴沼真監督は「短い期間の中で、選手たちが本当に頑張ってくれた。サッカー部のトップチームやBチームなどからの選手たちだが、一致団結してまとまっているのが強み。大学チームの最高位を目指したい」と抱負を語る。宗塚良真主将(経済4)は「県大会は試合を重ねる中で改善点を見つけて修正し、成長を感じられる大会だった。関東大会でもチャレンジ精神を大切に精一杯戦いたい」と健闘を誓った。



フットサルチーム。左端が宗塚主将

**取材スタッフ**  
 千田 夏生(薬学部5年) 君島 麻未(経営学部4年)  
 宝蔵寺佑樹(現代政策学部4年) 傳法谷佑樹(現代政策学部4年)  
 石川 慧(現代政策学部4年) 西村 太郎(現代政策学部4年)

**アドバイザー**  
 知見寺美紀(2014年度卒業) 吉田 美咲(2015年度卒業)  
 高桑 麗美(2017年度卒業)

**記者募集**  
 記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生もぜひ参加してください。  
 連絡はこちらまで j-sports@josai.ac.jp

Jスポ フェイスブックはこちら ▶ <http://www.facebook.com/JOSAISPORTS>